

「(仮称) 山形県道路中期計画 2028 (原案)」についての意見募集の結果

1 意見募集期間

平成 31 年 1 月 15 日 (火) から平成 31 年 2 月 14 日 (木) まで

2 提出された御意見の件数

計 9 件

3 御意見等の概要及び県の考え方

No.	御意見等の概要	県の考え方
1	<p>◆県民の道路整備に対するニーズの把握について</p> <p>中期計画の策定にあたっては、地域間格差への対応、安全・安心の確保、豊かな生活環境の創造等の観点から、県民の道路整備に対するニーズを幅広くみ取るとともに、期待に応えるべく道路整備を計画的かつ着実に推進することが重要。</p>	<p>道路中期計画 (原案) の作成にあたり、県民、市町村、道路利用者へのアンケートを実施し、今後の道路整備に関するニーズ等の把握を行いました。</p> <p>この度のパブリック・コメントによりお寄せいただいた御意見については、対応方針を検討のうえ最終案に反映させ、計画的かつ効率的な道路整備を推進してまいります。</p>
2	<p>◆計画へ掲載する計画路線の考え方について</p> <p>工事着手路線のみの記載で、山形県の道路整備の姿、みちづくりのあり方が明確となるのか。現計画を踏まえた次期計画の路線掲載の考え方を明確に示して欲しい。</p>	<p>第 4 章地域のみちづくりビジョンに、本計画へ掲載する事業箇所の考え方を追記します。</p> <p>(掲載箇所 p.135)</p>
3	<p>◆高速交通網の空白地帯の解消について</p> <p>高速交通網の空白地帯の解消をどのように位置付け、解決を図っていくのか計画に盛り込んでもらいたい。</p>	<p>高速交通網の空白地域については、施策②の取組方針に示すように、産業・観光の振興のため、高速道路等の IC に接続するアクセス道路等の整備を推進してまいります。</p> <p>(掲載箇所 p.89～91)</p> <p>整備・調査を予定する具体的な箇所については、第 4 章地域のみちづくりビジョンに掲載します。</p> <p>(掲載箇所 p.136～p.151)</p>
4	<p>◆事業費の確保について</p> <p>中期計画に位置付けた施策の推進に向け、どのように事業費を確保していくのか。</p>	<p>県では、道路整備に必要な財源を確保するため、国の地方に対する重点支援の方針に合致する事業に優先的に取り組むとともに、地方単独事業に対する国の地方財政措置などについても情報収集に努めてまいります。</p>

		<p>また、その他の事業についても、一層のコスト削減に努め、新規事業箇所を厳選するなど、選択と集中により事業の効率化を図りながら、必要な予算の確保に取り組んでまいります。</p> <p>(掲載箇所 p.155)</p>
5	<p>◆各地域のみちづくりの方向性について 第4章の地域のみちづくりビジョンの「庄内地域の今後10年間のみちづくりの方向性」において、下記を追記して欲しい。 ○10.災害や豪雪に強い道路整備による中山間地域における孤立集落発生の未然防止</p>	<p>庄内地域においても、中山間地域の孤立集落発生の未然防止に向けた防災対策等の取組を予定していることから、ご提案の内容を追記します。</p> <p>(掲載箇所 p.148)</p>
6	<p>◆新潟山形南部連絡道路の整備促進について 新潟山形南部連絡道路は、過去10年間で供用延長の増加もなく、新庄酒田道路に比較して大きく遅れている。</p>	<p>新潟山形南部連絡道路では、平成21年3月に赤湯バイパス、荒川道路が供用開始して以降、この10年間は供用延長の増加はありませんでしたが、梨郷道路、鷹ノ巣道路の整備進捗が図られるとともに、新たに小国道路の平成31年度の事業着手に向けた手続きが進められております。</p> <p>太平洋側と日本海側を結ぶ横軸となる地域高規格道路は、物流の円滑化、産業振興、観光振興、交流人口の拡大、大規模災害に備えたリダンダンシー確保の観点から重要であり、事業区間の整備促進とともに、計画路線の事業化の促進に取り組んでまいります。</p> <p>(掲載箇所 p.52～56、p.85～88)</p>
7	<p>◆概要版と本文の統一について 本文・概要版の文言に統一がとれていない箇所が見受けられる。</p>	<p>本文に合わせて概要版の1枚目を再構成するとともに、文言の統一を図ります。</p>
8	<p>◆数値データの測定年次について 一部のグラフ等において、数値データの測定年次が記載されていない。</p>	<p>改めて図表関係全体を確認し、測定年次を追記します。</p>
9	<p>◆専門用語の説明について 専門用語には注釈を入れてほしい。</p>	<p>注釈とともに、巻末資料に用語解説を追加します。</p> <p>(掲載箇所 巻末資料 p.23～26)</p>

4 その他の意見

(1) 第3回山形のみちづくり評議会

No.	御意見等の概要	県の考え方
1	<p>◆他団体との連携について</p> <p>防災やまちづくりなどの面で、関係部局、団体、地域等と連携した取組が今後必要となる。</p>	<p>関係部局等との連携について追記します。</p> <p>また、地域づくりや産業振興等の取組事例として、期待されるストック効果について記載します。</p> <p>(掲載箇所 p.122～125、p.135)</p>
2	<p>◆地域のみちづくりビジョンのキャッチフレーズについて</p> <p>高速道路ネットワークの整備状況などを踏まえ、今後10年間で取り組むみちづくりの方向性を表現したフレーズにすべきである。</p>	<p>再検討のうえ資料4のとおり修正します。</p> <p>(掲載箇所 p.136～151)</p>
3	<p>◆重要港湾酒田港の活用について</p> <p>日本海側と太平洋側を結ぶウエストラインの整備に期待。</p>	<p>施策1に地域高規格道路の整備促進、事業化促進、直轄国道等の機能強化を明記しています。</p> <p>(掲載箇所 p.85～87)</p>

(2) 県議会・県内部

No.	御意見等の概要	県の考え方
1	<p>◆計画のテーマについて</p> <p>テーマ「ヒト・モノの交流を促進し山形の未来をつなぐ」について、趣旨は理解できるが、「未来へつなぐ」もしくは「未来を拓く」が適切な表現ではないか。</p>	<p>県では、道路は交流の促進に必要な最も基本的なインフラ基盤と考えており、取組姿勢に対してより前向きな印象を与えることができる「未来を拓く」に修正します。</p> <p>(掲載箇所 p.83)</p>
2	<p>◆「小国道路」の整備促進について</p> <p>国が小国道路の新規事業採択時評価の手続きに着手することを受け、中期計画においても他の事業箇所のように10年間の完了を見込むべきではないのか。</p>	<p>小国道路についても、10年間の完了を見込むものとして関係する箇所を修正します。</p> <p>(掲載箇所 p.86～88、121)</p>
3	<p>◆施策⑤の指標10「指定通学路における歩行区間の整備率」について</p> <p>10年間の目標が低すぎるのではないか。</p>	<p>交通安全対策は優先施策の一つであり、消極的な印象を持たれないよう、整備効果を的確に表現できる指標に変更します。</p> <p>(掲載箇所 p.103、121)</p>

4	<p>◆高速道路網のリダンダンシー機能について</p> <p>依然として太平洋側での大地震の発生リスクは高く、リダンダンシー機能の確保のため、日本海側の高速道路網の整備促進が必要</p>	<p>文言、図を追記しました。</p> <p>(掲載箇所 p.33)</p>
---	---	--